

ゼミ紹介 小林 正人

小林 正人 教授（日本経済論 担当、2000年就任）

駒澤大学に奉職して17年が過ぎた。今日まで、200人以上のゼミ生の成長を見守ってきたが、学生たちが自信をもって社会に飛び立てるようになるには何ができるかという自問自答の繰り返しでもあった。

ここでは、最近のゼミにて試みている「アクティブ・ラーニング」について紹介したい。

毎回のゼミは、当日の担当グループが、割り当てられたテキストの章を要約したレジュメを全員に配り、それをプレゼンすることから始まる。これはどのゼミでも共通していると思う。

そのうえで、担当グループは、その章の中から疑問点や論争点を見つけ出し、それを文章化した文書をみんなに配付する。ほかの3グループはこれにたいする自分たちの解答を話し合い、順番に発表する。全グループの意見は、ワープロを使ってその場で、教室の前のスクリーンに一覧表示される。それを比較しながら、グループどうしの質疑応答も行なう。2年生の前期にはちぐはぐになることもあるが、励ましながら指導を続けると、後期からはグループ討論としてしっかりと定着している。

今年の3年生にアンケート調査をすると、「人前に出て発表し説明する能力、文書力は格段に向上した」とか、「プレゼンで自分の考えを伝える力、意見交換により周りの意見を聞く力がついた」などの回答があった。この自信が、社会に出て役に立ってほしいと願う。

このほかのゼミ活動として、工場見学（日産自動車、キューピー、富士重工業、花王）が好評である。また今年度には、トヨタ産業技術記念館などを見学するための1泊2日のゼミ旅行を敢行し、充実した研修になった。

また、経済学部主催の「学生奨学論文」では2013年に2人、15年にも2人のゼミ生が「佳作」をいただいた。これを中心に、卒業論文集として『現代経済学生論集』を刊行し、後輩たちが受け継いでいる。

